

執云備孝義傳三編

沼田安藝

卷五

達

御家

和書門			
三	四	六	五
一	九	九	五
一	七	六	九
冊	架	函	號

內閣文庫			
五	三	四	和
八	四	六	書
函	一	六	
五	七	五	
架	冊	號	類

第六

共十七

新

內閣文庫	
番號	和 34655
冊數	19 (5)
函號	158 25



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



藝備孝義傳三編卷五

安藝國沼田郡

八木村六右衛門夫婦 打越村甚蔵

同村與三郎子甚蔵 伴村嘉次郎下人勘兵衛

阿戸村梅軒女奴ハ 北下安村喜助女五

江波村傳蔵

安藝國安藝郡

戸坂村忠蔵 江田島次郎

同島添之丞妻ハ 府中村庄松

中山村甚六女きり

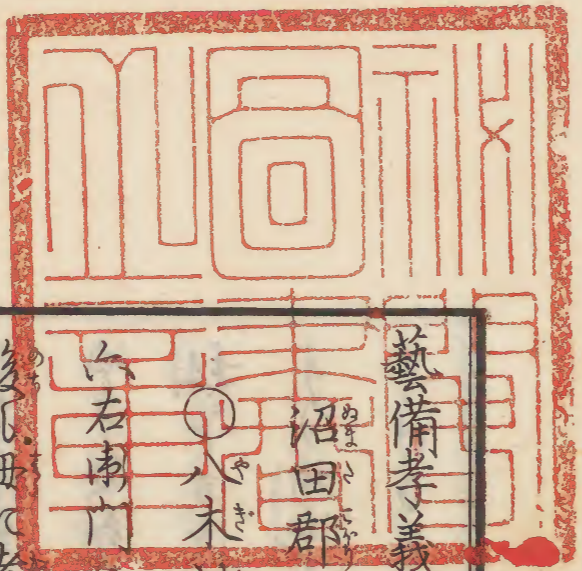
同村長蔵同兄弥三吉喜八四品

戸坂村きよ 畑賀村平兵衛妻とて

温品村與四郎夫婦 久留島順平

苗代村友蔵 奥海田村菊五郎妻とて

倉橋島清八 宮原村為蔵



藝備孝義傳三編卷五

沼田郡

八木村六右衛門夫婦

後母に孝養怠らざりければ寛政辛酉度まで
米十俵ありて賞せられしと。第二編に載る。あま

と物商ひてはゆぐ隔りし地は往來せしが母
九十に近くありければ今ハ商のこころをば子林花に

任せその身ハ村内よりづくの耕作とあり。貧乏

中ももげの母の口は適ふ物を進めいさう病を
 こゝあればやぐく醫をむく薬を服せしむるちよと
 弟よこころなくむしてかゝも不自由をまうしあぢ
 夜の夫婦母が前後は卧してせよ保養をつくし
 母寺詣りてわらわ林苑を脊負せおのまじり必つごとひ
 ゆさぬかく母よ事るこゝと意をなせぬあらうと年の
 租をもけししとてまゆくまうけし村内の百姓うち
 より物語らふ毎よら右衛門が事をしひ出てあめを
 しけるとて文化二年丑の六月すく前の如く褒賞

せらるその孝状のほまびらうなすの第二編を併見
 一貫文を下されし。

○打越村甚蔵

○同村與三郎子甚蔵

甚蔵ハ父吉右左衛門死して後母を孝するに由り
 寛政六年米をのみして賞せらるしとて第二編の
 見ゆ其後母をりく老衰しければよく孝養を厚
 くし母も心を安んじて常に人よ語りてよろこびし
 同十二年申の六月あつてび米三俵をのみし

其年先公天祐院殿遊獵の時召見のひて鳥目一貫文を
 下され文化三年寅の六月もまた賞を蒙るらく前の
 如し。○與三郎が子の甚花はちや母を離れ兄仁三郎と
 せよ父に事して孝ありしをばらまじも寛政六年褒
 賞を蒙るしよ。第二編に載る甚花さきふ別家
 せしが日く父がもよよゆきして安否をそふらと来
 るし急らむを弟のひ父が意よとむくしを
 まじづるしを父を樂しめんと日に一夜に必おのが
 家へ近つしものまゐらせして郷食しける兄仁三郎

をてし後その妻子もあまきどなや父がさびし
 思ひしに飯をうり弟久花ともにも夜毎に本家へ
 ゆきて父が側まで繩をひつしものかたりしをどし
 あぐさめける。同十二年申の六月もよひて鳥目一貫
 五百文を下りしよ。

○伴村嘉次郎下人勘兵衛

勘兵衛ハ八九歳のひより嘉次郎が父孫兵衛はけしよ
 孫兵衛ハ里に正しよもけしよめきしよある嘉家ありしに
 嘉次郎幼年まで家を侍しよ風の費もあつて頼



貧しくなり持高きつ減どくれば勤兵衛心力をけく
 して家事をとらうい幼き主人ともり立たるさきか
 嘉次郎が生産をとらうけびきまの租も怠らざたて
 まつりいふその勤兵衛が力なり嘉次郎成長するよ
 および勤兵衛が積年の忠勤を感じて別一家を
 なすいめんとおもふとその力なくおもひいづらひて
 居らういづらうに茂兵衛とて父が討たはらう父より
 産を分ち与へるもの子なき故めて勤兵衛とて
 その家と續しめんと請うれば嘉次郎も幸の事

なりされどかひて思ひくともあれびさうあり
 とも産をとりてけらるるといひけるよ勤兵衛
 きて主人の家じうならゆけが別は産を
 とらういづらうい思ひもよるるかてく辞して茂兵
 衛が家と續き妻を娶り一年をりくせしに
 なる主人の家じうらもなきおひおのが家とて妻
 子よまうせ主人家み引移りてまう務ること十二三
 年耕作のしゆよ役夫よとそれ或は孝履草鞋
 ぬいはくくすむ村内よお走りやのをもははめ

昼夜となすくもさうきその債をほく一粒一銖もどが
 糸よけけざるれくこ田畑よりつくり出せしもの
 までも主人よきけおのが妻子の衣食い考まあそ
 ましきさほむれど嘗てあつりいど中へ主人の
 子の幼ととぞてこれ飯おとて教導くこと甚う怒り
 既又七十にどされどなるや主家よけくおとて六
 十條糸貞実たふひ移りりこれ文化六年己の
 三月米十俵を下されその行をとめられける。

○阿戸村梅軒女ぬい

ぬい天性孝順なり父梅軒老て男子なればぬいよ
 婿養子して醫業を継せ子三人ありしがぬい二
 十七歳の時夫病死せり親れ村内のとのまこ婿
 養子をとめぬれどぬい貧しきあふ家口多し
 たりて親の養をかんし飯おひくくこれ
 いうそ孝養の外他念なかり三人の子ややく
 成長せし二女と一子か他へ嫁せし男子は
 ちんちん醫術をなすいせぬい一人して家多し
 ける己が持する一斗餘の田地よ人の畑まらなり



あづかりて、それを耕し、或は人よやとりぬまじ。様と
 おり、草履、子鞋、うき、げ、くり、月のひら、おちも耕也。よ出
 日夜かせぎて、首もの、つらも、早くたてまり、お親の
 衣食方の及ぶかき、うき、あ、お、酒、は、け、ひ、野
 おきて、ち、お、これと、ま、う、せ、魚、ハ、僻、郷、ゆ、急、は、ご
 さと、心、を、お、買、求、て、ま、う、め、ぬ、その、縁、の、あ、つ、ひ
 ぬ、ぬ、は、な、く、ち、う、も、お、の、が、親、若、せ、る、さ、ま、も、お、後
 ち、あ、あ、お、親、いの、ら、な、が、う、て、せ、よ、バ、十、八、の、ま、を
 む、う、け、ま、ご、年、れ、賀、を、あ、う、ん、と、お、ご、ご、その、て、ご、て

な、く、い、と、心、を、若、め、が、遂、よ、婿、う、る、その、助、を
 いて、賀、宴、を、ひ、ら、き、う、お、父、母、殊、よ、う、わ、び、ぬ、が、そ
 お、親、ま、さ、り、く、齡、を、重、ひ、父、ハ、老、が、れ、て、小、見、の、ご、ご、く
 さ、ま、お、ぬ、い、側、を、さ、る、れ、ご、越、居、より、二、夜、の、ご、ま、ご、
 り、ご、ご、ご、お、親、よ、た、う、ひ、ご、ご、ある、時、郡、吏、ご、の、家、よ
 た、ら、より、ご、ご、ご、あ、ご、ご、閑、ご、梅、軒、ハ、卷、の、面、に
 送、を、し、きて、坐、ご、あ、ご、ご、ご、家、人、皆、ご、の、側、よ、平、伏、ご、母
 郡、吏、よ、向、ひ、て、ご、ご、女、ぬ、い、か、つ、て、親、の、意、よ、さ、ご、ひ、ご
 と、ご、ご、平、生、ご、ご、ら、好、め、る、酒、魚、を、た、ご、ご、寒、ご、ご、ら、ご、ご、る

やうに着せざるよひのふぢゆとを知らしめよ
 女をもらさるふと涙をながしてひるとなり
 文化六年己の十二月米五たら賜ひてるめのみ
 此ち三歳をうりて父の身まかり母の恙あられど
 して老ぬ事いよく心を孝養ましく厚
 きをえて同十二年亥の六月す前のゆく賞せらる
 母年九十六ぬい四十九よりぬ寡となりてより
 二十二年身の終もつて今の子左仲の婦ととりて
 孫心出生くるが皆ぬいよひ心やうして

お内考よ睦く里人もせよるめをゆるける文化二
 年先公天祐遊獵のとき召見よひて鳥目一貫文を
 下しよ

○北下安村喜助女里

里の父を助老て負く里つて婿養子せよ早く
 らせしむ里の幼子二人をけれ力を尽して父母に
 養ふ二子ひそくたると及ていふか人は仕めて
 いたりの切符をばさるる老く通債の償はあてられ
 一歩も歩みの助とるらず父の老傾き杖よるか

りて、せりりく、主顧家へゆき、くんど、さまで、の傷七
なり、る、母い、く、病て、起居、さか、あ、え、ざ、れ、び、ま、つ
一人、生産のため、洗濯の、債、れ、つ、例、を、去、ら、ざ、り、て
介、係、あ、ご、間、あ、れ、ば、産、れ、よ、ゆ、く、ら、も、あ、ま、り、と、
時、ぐ、か、つ、つ、て、食、物、の、事、よ、り、母、が、二、夜、の、け、が、れ、ま、で
れ、ら、う、ら、な、く、さ、ら、い、く、る、文、政、五、年、代、官、よ、り、
賞、して、鳥、目、そ、こ、ご、く、と、ら、よ、母、が、う、せ、あ、る、ま、ぢ、り
父、い、あ、ふ、な、ご、ら、つ、て、歌、八、十、五、よ、ま、り、ぬ、

○江波村傳蔵

傳、花、い、人、と、な、り、貞、実、よ、り、そ、の、身、富、に、非、ま、り、と、
き、よ、人、を、救、ふ、こ、と、を、好、み、隣、里、よ、い、ま、り、つ、て、蒲、園
政、情、あ、ど、も、さ、ら、い、ど、の、あ、れ、ば、さ、ま、り、よ、謀、營、つ、て、
そ、の、助、を、な、り、家、に、佛、像、を、さ、ま、の、よ、い、頼、母、子、を、ら、の
事、を、あ、つ、て、こ、れ、を、買、い、め、ま、り、他、國、法、來、の、船、沖、あ、ひ
よ、て、風、波、よ、な、ま、じ、時、に、漕、嘴、船、よ、ら、り、乗、り、そ、の、難、を
救、ふ、ち、の、い、人、の、あ、り、が、こ、こ、ろ、を、も、た、さ、ら、い、と、あ、り、
漕、嘴、船、と、り、あ、い、漕、め、く、ら、う、と、な、り、自、由、あ、る、も、の、よ、り、
迎、え、こ、ら、う、に、嚴、島、祭、禮、の、管、絃、船、を、換、く、此、村、よ、り、こ、の、船、を
ま、り、出、さ、こ、ら、う、に、ま、り、つ、て、ま、り、も、そ、の、
始、ハ、傳、花、か、ら、う、ら、い、よ、り、あ、ら、う、ら、い、と、ま、り、
もと、こ、の、江、波、村、ハ



廣島の地を離れたる島なり。伝説に陸つぎは法來の
 路をけくらむとあり。城下の川邊淺あり。時
 その沙をこの島の傍に棄る。ついで所司は林がひ
 彼沙をもて二町むらりの百堤のどろろ成りたる。左
 右より舟をちつらひあさける。よはりのあつた
 斥鹵を昇りて田畑とせられ。時の助ともなり。今ハ
 法來の路も遂に成然し。彼是の奇特を賞して。これ
 も代官より鳥目五貫文をあつぬ。天保四年の
 事なり。

安藝郡

○戸坂村忠蔵

忠蔵ハ父忠三郎が頑よしくけろがこよよくけろ
 ちろひ。継母よ慈あること。真母よ愛あるべし。ま
 異腹兄弟よ友愛あつてもめて寛政年間まで
 褒賞を蒙りけるよ。第二編よ詳あり。そのち父
 死し。継母を孝養すること。急らふれば文化二年
 まさき。前のころ。米五俵を下されける。その
 國老上田主水の采地をればかの家より。銀若干を與へらる。

寛政十二年先公天祐院殿遊獵のとき。召見たまひて。鳥目

一貫文を下さる。この下。次郎ぬい。並。同。

○江田島次郎

次郎ハ父を次郎平といひて。代々江田島の里正なり。
 次郎もまれつき柔和にて幼より。父母の意をそむく
 こころなく。七八歳の時母をうらみ。成長するに値ひて
 父よ事あること。まをく。あつし。父痲病をやく。後
 浮腫とあり。ま。宿疾の痔痛まで。く。若く。その家
 奴婢も多ければ。次郎。昼夜側をさる。く。薬を煎。

食物をそのの起卦をたきけ二便をきよむるをど
 かつて人のちよかけざるこゝろおよそ二葉むり或い
 病をふけりて薬の飲つてき時次第こゝろ
 られを身い目の涙のわくくひまろく茶をふく
 おのが口より飲せけるこゝろなまもあつて
 そぞがくお病を心をつくくれば父がおのち病も
 遂に快くなりぬ享和三年庚の二月米五俵を賜ひて
 賞せらる。時に次第と一廿三なりそのち孝養いよく
 厚くまゝ里正とありてよくその職とけりあ村民いふ

教ひあつきて村の風俗も養へりけり文化六年
 もも褒賞をわたりあるこゝろ前のごとく父が七十より
 あり別荘に隠居せし後次第はあめのひまも昼夜と
 なくゆきて父をおくこゝろ宿疾おこる時いつも側を
 離さず分保しければ父も心を安んじて次第は側
 あれば醫よりもこゝろけりて悦びとらん次第
 平生謹遜ありて大戸の風をふくおのが務をつ
 一一家の睦まじきよ内此のよりしてあつて
 村までも皆感ぜざるものなりけり割庄屋といふ

進まりぬいふ十二年亥みの六月むねからひりて前まへのく賞あづかり
せらる。

○同嶋漆之丞妻ぬい

ぬいハ佐伯郡能美嶋の産うまれあるが廿歳ふたじゅうあまりのとき
漆之丞うるしのおぢが妻つまとなり。性質しやうせつ温ぬく柔かろようくて舅おぢい姑おばあよけうあつと
甚く厚あついうろろいそがらいさ事ことありとも舅おぢい姑おばあの食たべ
物ものハ婢ひめ僕べいのまをて假かりまして必かならず自みづかららひ暑あつ寒かんのひに
いそよよ意いをくづつてけうくすつぬぬ姑おばあとい九く十じゅう
かよび病よ罹りて五ご六ろく年ねんもありくらいからいふるまじらぶ。

寝ねせ起しより二に便べんのあついひまやいといふまじらひ
姑おぢいもおぢいの孝なまをとくまからひて悦よろこびくる。されど
姑おぢいの病遂ついによ愈す。舅おぢい僕べい内うちの性美よふれどうもよらひ
九く十じゅうふあまりもと福ふく急きの性格かくなるに老ろう老ろうしてみを
いそよよす。やもまればいうう言ことをいふ。ぬい
いつもその罪を己が身ようけ世上のそろいちらう
あそせつひ慰てればやうらういひ。その孫さへくよ
心こころを盡し身を碎く。あまり。おぢい。ぬい。
らいく。旦あり。老ろう人ひとよけうあつとを樂とせる。

家の内をよりより。家ももあつて。男もまこと
 孝とよりりぬればぬい。去来の春は。娘は離れ中。あつる
 不幸にあひけるよと。かきとれ思つて。その慈嘆
 たつてんか。あつて。傍るる人も。慰めのぬるをうりより。
 享和三年亥の二月。貴く。米五たをりて。あつる。

① 府中村庄松

庄松ハ庄之郎が次男より。天性孝弟のとれなり。少時
 より。奥海田村の某が家よは。親をよりり。あつる。
 路の程も。帰るるに。父が病るとき。昼夜のふり。



凡百のそがしきとせむすく日よまふ度も
 ゆきあつりければ二親のまゝかまはせし来よくし
 なんこゝち身やうさぬあるゆゑ後の己が村内よして
 父が家の通きあつりのまはけらるゝかゝり父母と
 かゝりしけるまゝ主人の事をもかゝらばあし
 主人もおひく給銀をまゝあしけらに庄松いさぬ
 よろこぶもたまきくさうりく父母のまゝゆき安否を
 問ふとただは許りしるゝその妹屋ごとあしといひ
 くれば主人感してこれをゆるしむのまゝよあさしむ

兄半十郎ハ農業をせしめその隙日傭かせざりて
 母と後りくるが後の病才よてそのことかあまらば家も
 たらゆき難くありとせ貞物の納るゝとあしつら
 しと庄松ひそくよおのが給銀を出して事ゆゑあく
 きませしとあむありとあむあるものなまふ
 養子よせんといふものサからまゝはとせめて別宅
 せしめとせむるものとあれど親の事をかんと飯
 おとれて皆引せざりし父ハ七十九歳よて病死し
 くるが母ハ齡八十よてて猶恙あくその心けりよ

和らぎて子孫をめぐむ。半十郎もよしくこれにけく。一家
睡くくく。けふこも。庄松が行のうら。い。き。よ
よれ。あ。ぶ。と。里人も稱。あひぬ。文化六年己の
十二月。賞。五俵の米を賜ふ。半十郎が子。次郎も。
やうやく成長。人よ仕。庄松よち。ひて。貞実よ
け。め。庄松も。父の如く。重んぶ。慕ひ。と。なり。

○中山村甚六女きこ

きこ。年。孝心。ふく。母。十とせ。む。病。く。せ
ー。が。その。間。病。の。厚。き。こ。た。び。す。れ。う。後。父が

歌。ま。し。く。傾。き。つ。に。宿。疾。よ。も。身。ひ。の。さ。
志。ゆ。り。な。ら。ぎ。て。生。業。を。あ。は。ぶ。に。姉。妹。ハ。皆
他。は。嫁。し。れ。バ。き。こ。が。な。ら。き。な。ら。で。ハ。誰。う。父。の
養。を。あ。ぶ。き。され。バ。き。こ。一。人。し。て。機。を。と。あ。ぶ。紙
を。け。こ。カ。の。う。き。り。か。せ。さ。れ。と。家。甚。ま。う。く。夜。の
衾。も。奪。れ。バ。父。が。足。の。冷。あ。ん。ら。と。を。れ。と。考。よ。足
と。と。よ。ひ。て。卦。し。く。父。が。病。お。こ。る。時。ハ。こ。と。さ。う。心。を
も。ら。ぬ。昼。夜。側。を。離。れ。ぬ。密。に。介。保。せ。し。あ。る。は。婿。養。子
せ。よ。と。さ。ら。む。む。る。も。の。あ。れ。と。他人。入。来。り。て。ハ。父。は。け。う



まつるこころのやまなり難くさひてうけがらば
 まして他は適ころり絶てあうりく村内のその
 その情をあわれみて殊に感づあうり米五俵をのりて
 賞せらる。庄杉と同ト年あり。

○同村長花同兄孫三吉森八

長花ハ庄七ヶ子あり。二人の兄孫三吉森八皆別家と
 あり。長花ハ父がもとありけるが同トく孝友の心
 厚く母血症よて十年あまうりくくむさゆみく
 療養をすくしけれとどの験さくなく。金刃を痛く

甚しその時ハ熱湯をまてそれをあさむれば志むし
 その疼痛のやまらるるを夢んれば病者ごくとに長花
 夜半曉の分ちなくさるるやう湯を沸し母がやを
 せしむる。父も貞實のものよて。村の長百姓あり。ま
 老れてその務らうがさるるをひがき出されば長花を
 して。こまに代らうめしに。長花をねらさるるを
 あるそのよあらざ。この事とゆらうめられとあて
 辞退しる。かすら意よハ父母まをりく老衰し。ま
 母ハ久しく病ぬればよがよとあありてハ養を

かぐんこゝに怒てまゝ、孫之吉、長八も、晨昏かゝらざる
 来りて、父母の安否をうかゞひ、風雨の時こゝも怠る
 こゝに、中々、どりく、い、あ、親と、二人、か、と、に、け、れ、ぬ、り、
 止宿さむて、慰め、母、い、あ、り、く、こゝ、と、あ、い、い、ざ、ま、ら、い、つ、も
 脊負て、か、り、け、と、あ、む、け、め、く、兄、弟、心、を、あ、い、た、ぶ
 親の心よ、か、う、い、く、と、を、の、謀、り、て、こゝ、り、い、代、り、な、り、き、
 後、父、母、も、に、病、を、れ、長、花、暫、も、例、を、と、は、れ、ざ、い、
 孝、病、一、は、之、吉、長、八、も、代、り、く、来、り、て、學、く、介、保、せ、り、
 あ、親、を、て、一、後、い、兄、弟、一、を、睦、ぶ、く、長、花、い、兄、を、ら、い、や

ま、い、兄、あ、い、ん、い、本、家、と、重、ん、ど、り、よ、事、も、あ、親、存、せ、し、時、の
 か、く、え、か、ら、い、け、る、ま、ま、年、く、の、首、も、め、い、つ、も、他、人
 よ、う、い、ち、や、く、た、て、ま、り、り、ぬ、か、れ、る、事、の、事、人、に、か、感
 して、その、状、を、ま、り、あ、げ、り、い、い、き、こゝ、と、同、一、年、
 歩、る、め、あ、り、て、長、花、よ、米、三、俵、を、う、い、孫、之、吉、長、八、も、
 お、の、く、鳥、目、を、と、ら、る、。

○戸坂村きよ

きよ、幼、少、ま、て、父、忠、八、よ、く、あ、れ、母、と、妹、と、あ、り、きよ、
 十八の、歳、より、城、下、よ、出、て、九、年、を、う、り、な、公、一、交、る、所、の

給銀を一つ持て弟よつはどくろふ母ふおくりける廿七よて
鄰村の某よ嫁せよ。後妹もす。化小適母のそ家に
あつて。歌いしげ傾きつ。ゆゑに瘧疾の宿疾にたると
けふ。誰一人介保をたもてぶきそのもあければ。つよ
深くこもを憂ひて。日夜心も安らうとて。遂よ夫にむしひ
移んごらふ。こころうて。いとよをこしに。夫も。かまづ
心を憐れ。ゆるし。て家よ。ゆらし。び。きよ。づら。なる
田畑を。ゆり。或。ハ。人よ。雇。り。れる。ど。し。て。母。を。事。の。ひ。く。る。が。
母。い。よ。く。老。衰。し。身。に。疾。さ。あ。れ。ば。さ。も。め。の。こ。ろ。に。く。

い。い。ひ。い。れ。ど。き。よ。貧。窮。の。ら。ち。り。心。を。き。く。て
い。そ。あ。く。出。か。つ。て。その。意。よ。た。が。ら。で。化。よ。と。を。れ
ゆ。さ。て。も。母。が。食。事。の。以。て。か。ん。ご。帰。り。て。食。も。の。を
そ。の。へ。母。よ。さ。め。め。を。も。り。て。ま。ま。行。ぬ。され。と。雇。う。て
か。さ。る。對。して。心。あ。ら。び。や。お。ひ。け。ん。後。の。家。よ。め。こ
あり。て。昼。夜。累。々。の。か。あ。く。糸。ひ。き。機。織。の。こ。ろ。に。は
ほ。め。本。除。を。城。下。よ。持。ゆ。さ。て。賣。代。さ。し。こ。も。を。め。て
生。ま。す。と。ん。城。下。ま。で。ハ。一。玉。む。ら。りの。跡。あ。る。と。は。き。ひ。よ
後。を。こ。め。て。出。母。よ。新。敷。ま。あ。ら。う。ら。う。こ。ら。う。ハ。必。か。り



来りくる其夜ごとよ母が好めるふを取らざと
 つこことなり母病ころよき候ふされも糸ひんと
 きふきよいつもいざとてよもやまの活あど一つ
 ちむくよ糸ひきけるが老人のひき糸を交て後
 あせ一本糸ハ價ようらぎまてその事をバ母よたら
 一めど今日もよく人の買て利をうらると多あり
 ほどいついてよろらげせけるます種まき稲刈るこも
 必母よとしい糸のひきこぎとてをかうかこあ
 母が言のまよらうれば母人ぐにむらひてさよう

けろの厚きさなを懐く。女かくまで愛よし。く
 くれさふらゆして。悦泣は泣るを。きよめて。そく
 勿体なきもども。身より兄弟母一人の報答よ。て。
 かく長う。こなれ。い。や。と。事あるとも。あき
 たるこ。ま。た。母れ。餘命の。何ら。ま。して。ば。ある。日
 短からんこと。歎け。け。れ。と。て。涙と流。れ。ば。き。く。ん。も。
 皆ありれ。と。よ。ま。わ。り。て。感。ド。り。ぬ。か。る。もの。あれ。ば。
 費して。米五。た。ら。う。を。の。ふ。と。花。兄。弟。ら。と。同。一。年。
 あり。こ。ろ。の。國。老。上。田。の。采。地。は。係。事。に。これ。より。き。き。

かの家よりも米抄と書らる。

按ずるよ。女子ハ人ニ嫁してハ。夫より後ハ。夫を天とみる
 道あれハ。きよ夫よ。嫁を。して。帰。養。し。ハ。夫。婦。の。道。よ
 於てハ。過。り。と。い。ふ。べ。し。され。観。過。知。仁。と。ハ。聖。語。も。あり。て。
 孝。心。の。厚。き。より。出。た。る。も。あれ。ば。その。心。い。て。あ。れ
 あるを。て。官。より。い。その。過。を。畧。し。て。專。ら。の。孝。と。の。こ
 事。せ。られ。賤。し。も。その。よ。い。備。を。こ。と。を。求。め。難。れ。ば。あり。
 見。る。もの。これ。道理。を。辨。し。て。こ。と。を。し。や。高。田。郡。向。山。村。に。あり。

○畑賀村平兵衛妻も

うらやま 姑平生は清らうあることなほいふれはよき
 えうらひてまばく 浴させ家の池よても往んともい
 変め身は蒲團よれせてはれゆき弟の事その意に
 智くともあ 姑時ありて食さしはさるることあまは
 意を配りてそのはひおめめ品を考つてあまは
 これとまめ母人の食のあらざればと申しても食料
 まる心ありと誠をたくりていひけるよそで姑も強て
 食さることもありけり姑はもと平兵衛が継母よして
 異腹の弟二人あり勇助といふ近きありは別宅



小商をなして家計もゆるぎあらぬ母をつまびらかに
 おのが家までも療養せんと存じひんむを嘗てゆる
 ざりしをこれをも孝志のゆんごうなるによれるある
 づしすこゝ亀松と号す六年まで四十をうけしうまの事
 つき癡鈍なるよその身多病して言語もささかかく
 ちうも編急あるものあれどもさしともよくあ
 らひて一家をよおたやうう人々その行を感むるの
 あまう遂に官よきことえられ米五俵のひて考す
 文化十四年丑の六月あり後六年を経て姑八十まで

うせしが痛まかりてより凡十一年とも看病の厚き
 より死をわあし追慕するありさゆまで皆人の
 及ぶ所なれば文政六年己の十月まゝ考して米坂
 たすあこゝ前のごとし

○温品村與四郎夫婦

與四郎の父を新花といふ与四郎が三歳の時才まうりぬ
 母は夫をおくれ後らうの田畑をほくり或は人に
 やとられす少づれ女工あどして與四郎が成長
 するを力お世を渡りしが女の業なれば生計もさかく



一うらぎ、與四節幼より心をなやましく十歳をうり
 ももありてハ孝心いよく厚くその後より農事に
 心ともらぬ。稍成長するよあよび家産を才に引受け
 おのれ銀蓄とらして母よハ貧と知らしめど妻れ
 きくハ城下の産まで。角右衛門といよとの女あり。よく
 夫よ送しせハ孝養を考へ夫ぬれはゆよ。あらきことの
 せと食ひて母の食物ハ力のみをうりいとなむ。母老て
 痛よかりうらむハ貧とあらうより。醫藥のふりもさへくよ
 カをけくせり。與四節農業の間よハ衆民とあらく家に

けりて母の容体をうらむハきくよ。介保の事ちうくと
 ついおけバきくあらうてその言とたごりてなませり。
 人との孝とらむよとのあれハ與四節とてハ父にハ
 早くもあれ一人の母ありせめてハその心よかあらん
 こと紙杯にひはれど貧しき身ハ心よ任せざるせん
 うらむといひくるとあらう。病甚しくあらうハ夫婦は
 りもらうらすと。病よ看病し暫ハ病床と離さず母ハ
 人の來るにん夫婦が事をいひ出て其孝養の厚き紙
 悦ぶ。与四節いあよもして母ハ快復せんこと紙に

夜毎に前ある大川に入りて垢離をとりおのが信じる
 神佛を念とりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
 膝を枕として遠よをかろくたすうくればふりうがあげき
 見よめも堪かそぞありけるかくて與四節八日よあえ
 度母を墓よまうでく香花をさけ位牌よものをあへ
 ふどしけるさぬ生る小事やに異あらむ人よ感せ
 ざらなまうりきり文化十四年丑の六月夫婦よ米三俵
 のひて賞せらるかれまう能く村のおきてを守り祖を
 たてまつることよまやふ村内の交をも厚くしければ

里人よ己が妻子を教諭するごとくに與四節夫婦を
 標準としておしふるもぞ

○久田島順平

順平ハ牛田村よ住り父を順茂とらふ順平天性孝心
 あつく何事も父母の意をうけまことしめておぼさうよ
 こころに父子同く組足輕あれば父年老てもなほ
 せやく城下よ出て務をあしけれづつもその帰る
 ころを考つ食物をそのつて待けるがと一俵ること
 返る時ハ家人までも食するころとなり門外よ立出て

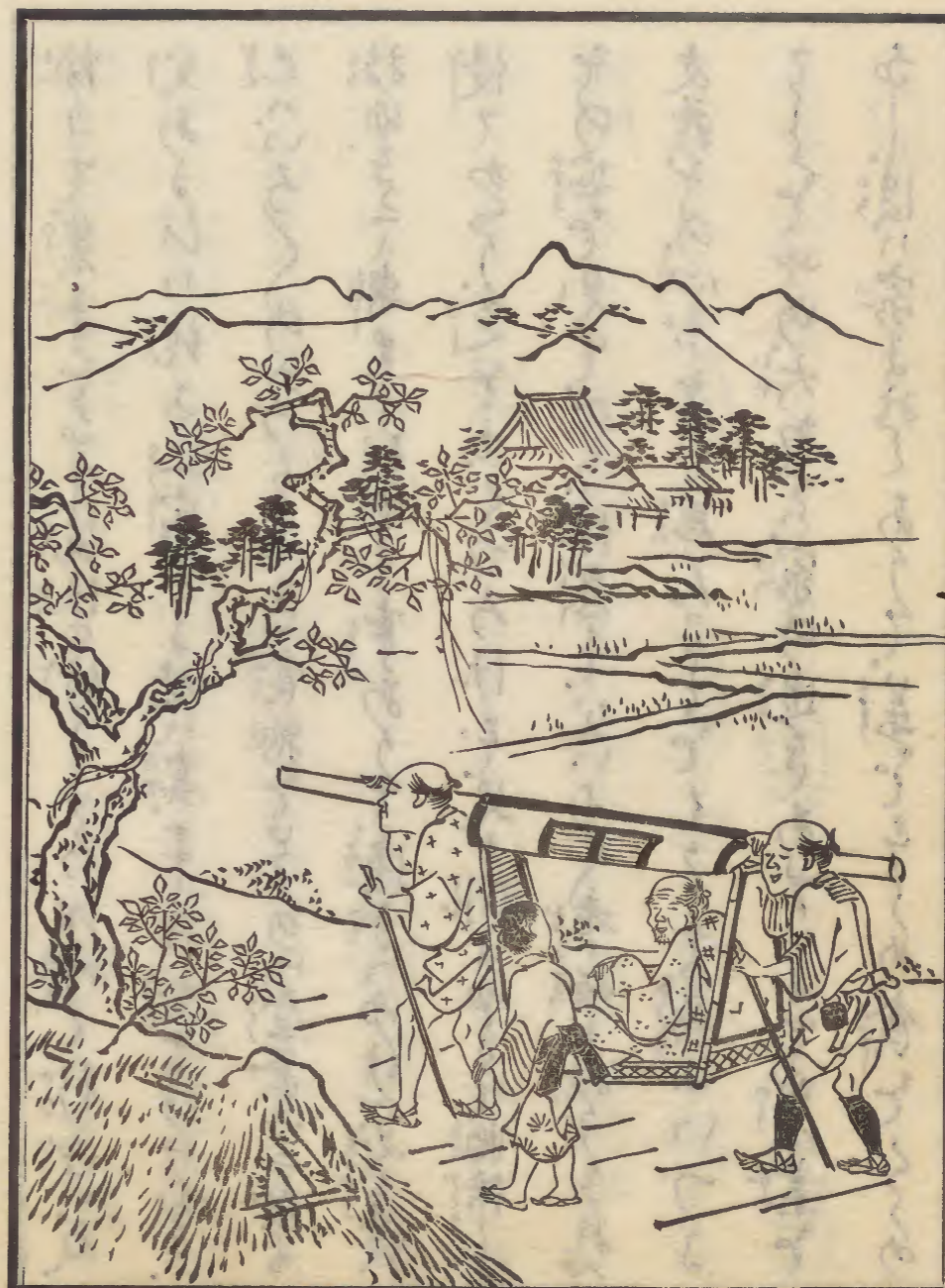
悔るをらわがし帰れはらうりてさへくよいつ
 たり慰めてそく膳とあふ父がきかんよく箸を
 くごそと見て後おのく食をあきまへ寒暑風雨の
 時におの身當番まだにぬれぬ必父に代りてはとめ
 いうよ芳ううこつめりともそのさふと知らしめ
 母の継母あるが順平が至性な感小人は違ふごに
 流涙してなめけるかき父とせよ江戸詰せーこつとあ
 たりーにおのが務の暇も手細工をなげとほー一所の
 金錢をいさうもこが身はけくるこつたすこつか父が

費用の資とあり寝食をも忘るこつ心をおせるさ
 同トも極よ住るとのも感せざるハわうりき順平かく
 親に孝あるのこあらざ平生の忠勤も人よこえま
 鉈術と善くして師匠よりまき侍をも授けけること
 近隣および同僚よりおあしくまうー出ければ文政
 四年己の正月銀百目をのひ後七年何りて父身まうり
 ーが病れ愈あるのこ表を勤るここの厚き人こみ
 感ざるなうりあま同ト十年亥の九月かこつて
 賞賜せらる。

○苗代村友茂

友茂ハ父を利平とてしりて良民の名あり友茂生質
 孝ありて孝心あつく兄弟不睦ト農業の暇も
 端物をあきなひて親を養ひあひまゝ母ハ病をほて
 早くせ父ハ歿七十よあまうて中風とせま歩行むつ
 うしくちりちれぬ道にありまゝに鄰村に孫しき見
 ものあまびいよ忙しき時とてもかあらぬ背負てゆき
 寺院に説法あれば彼の遠道よりうて或ハ負あまひハ
 輦に乗せむか女ともしき道ゆきとて父が側よあまひハ

ゆりて農事をあし説法の終るころ返考て行むぬ
 父あまひハ絶ふ止宿する時ハ妻まゝの女をけけあま
 己いろくのめづらき食物とてその昼夜二之は
 持ゆきとて樂まむむしき事ありて遠方ゆけは必夜に
 侵てわたり足やもくつろけむ父が側よゆきとて物語し
 その安を見とてのち休息とて父いよ老病も加りちれぬ
 友茂その心なす思んこととてもうて高みいづる
 ことをやめ大わゝ家の道にありて農作業を
 あし後ハ家よれとありて茶をきとめ食をくめ



さへぐよきを配りて幾度とあく甘旨とさつこの
 事に至らぬくまやのされど友花が心よふあふ父が喜ぶ
 かのいづるこころ多しといか程かふ志ゆるやうんと
 考ふこれをもあはれいける妻は後配あるがこれをもあは
 ものよそ夫とせよよく男にけうらまひり前妻の児は
 愛するこころおのが生に異ならぬその子もこの生
 たららるるくお親おまじ祖父よよく奉ける中にも
 増えたりと縁は五歳なりあるに祖父病てより
 隣家へ遊びよだもゆる常小例を頼みて小使あど

しけるところなり。かくて父ハ八十及て遂にたうなく
 ありしれバ友義をたしめ一家のあけきり譬やふとの
 なく野辺のあくり追薦もいそぎ承りしり。ぬ友義まじ上を
 敬ふると深く年の租たてまつるに。俵子まじり意を
 わらる。村内の交信実を承りしれバ人ふかき飯見效ひ
 けるとぞ。文政八年酉の七月。友義は鳥目五貫文を
 賜ひてその行を旌せり。

○奥海田村菊五郎妻志月

志月は坂村伴五郎が女なり。夫菊五郎定まれる産業も

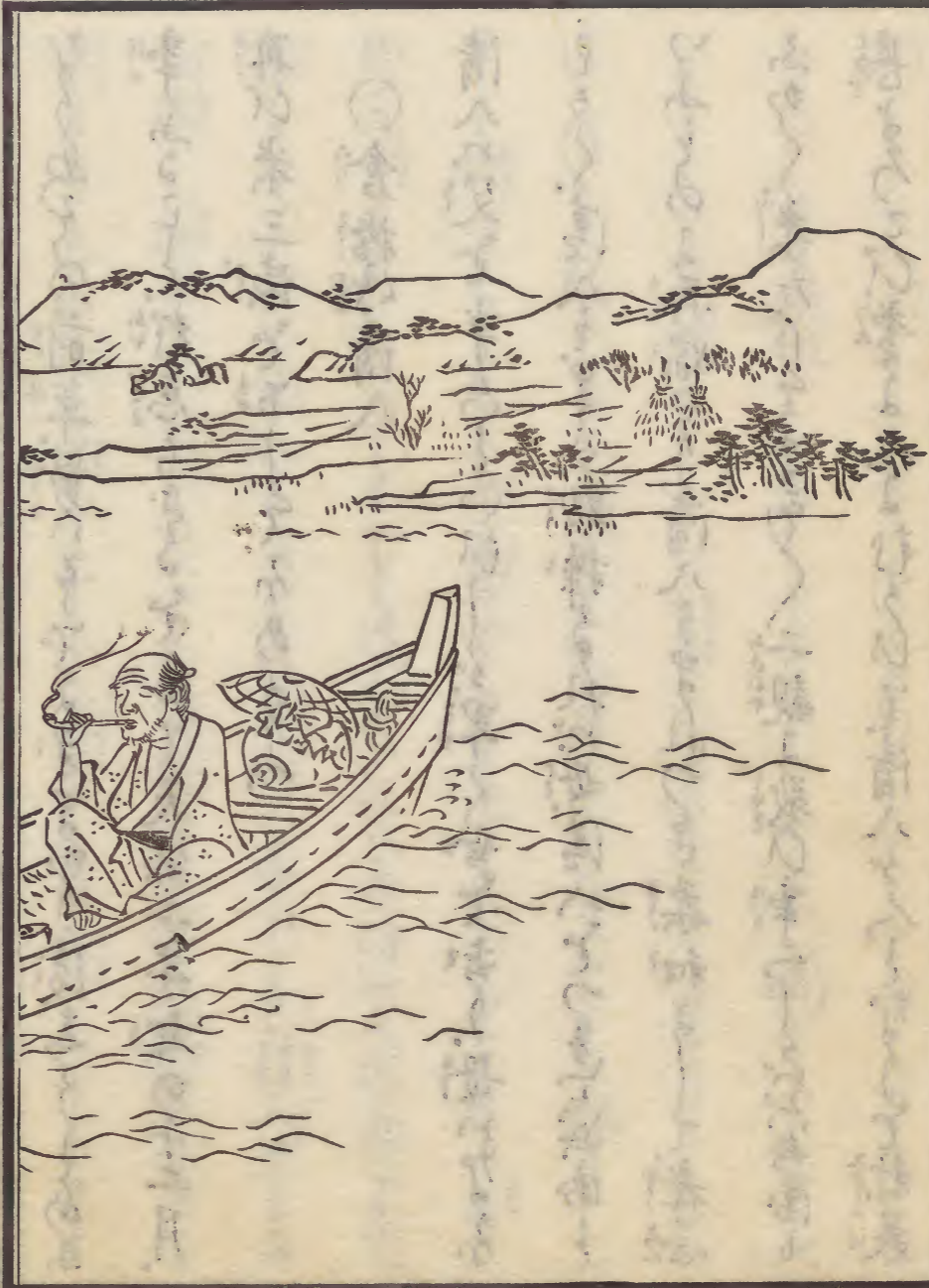
あくて家甚まづ。志月日夜機志ごとく。まじり俵の賃
 係るごとく。夫とせよ老たる舅姑を養ひ。夫ハ生業の
 ため。日く外に出け。まじりおのれ老る。側を去らざり。力と
 承りしり。事へり。舅姑六八。八十よりかく。姑ハ七十に
 せよ。老がれ。歩行よな。まじり。姑ハ。ものいひ。も。まじり
 難き。よ。まじり。もの。好い。い。出ける。と。志月。一。し。り
 その。意に。まじり。く。ところ。か。かく。て。まじり。まじり。まじり。まじり
 かり。後。ハ。歩。行。も。あ。一。え。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり
 承り。し。り。まじり。女。工。を。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり

信じてあつたカのカのわづらひにせめてあまらうすべし。まじこが
 みるまじの心よかおえざるこころありて。眺めおとあつた
 こころもあつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 けうひあつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 いま。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 身の心よまらせざるこころあつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 眺めおとあつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 感称。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 賞せらる。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

なりぬその前年。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 事あるこころ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 再び米三俵を下して。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

○倉橋の清八

清八の父を半六といひ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 こころ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 いふもの。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 ふかく。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 甚よ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。



一々り家きりめて貧しく持る田地をていふ事とするふ
 足らざれば清八農事のひまを備作せしむるに
 父母を養ひける後母の死に父の老て眼をさへ遂に
 盲となり起居さへ心はまうせざるを清八すくわ
 づきて弟のふ父が意よかふにむ妻は次第奮つと
 りしもの女なりこれ夫よあらひて孝心あつて手足
 ましひある子も何事かあまて男の事さ嘗て意に
 ちく夏に夫ぬ父がまをひきて凍に死にぬぬハ
 燈よ火を熾くして寒さを知らぬぞこの島民ハ

一々海上二里をり隔りたる鹿島とつよとらに田
 地を持ける清八もこの田畑あれば耕作はゆ
 時父と家よわに思ひぞ中つ負て船よせ夫婦
 まらも父が身よつける調度まで持てこび彼島よ
 至つてハ寒暑は随ひその地をえらびて父が居處と
 さめあつて食物をさめ慰むるこゝ家よあるに
 養あらば兵衛歌八十よあまりて身尚きまらあつ
 ひくよ夫婦を養ふのよさよ固なるべし人皆やめ
 せやける清八も郡吏と教ふことあつて村法を

ものりて己の務とをけし人のなまかき事をも
一人してえらひ多岐の文化七年代官より賞して
鳥目一貫文と與ふ。

○宮原村為蔵

為蔵ハ父を榮助とし小妻くらりの村北里二ツツリ。為蔵
いけけあくして父を失ひいづすぐれたる生質あるに
めて歳僅よ士よして父の職を継ぎける。長よ隨ひ
その志大よしてよく行を修し職をばむむころそ
清屋よして仁心ふるく民此利を興し害を除く

らと妙あそびげやうもの。その功の殊よ大なるハ嘗て
山を鑿ち長渠を作りしあり。初村北北海をの
地を闢て四町餘の田を殖りし。大谷の水よ向ひて
流産ち一泓の川をうり多岐の霖雨よどよハ洪水の
害を免れかきし。その水を他地よ洩さんよ多く吉田を
壊るをもて。数月工夫とあらし。別よ長渠を作り。川流
西のうらよ導くに志ありと。思定め。その事よ勝たる
傭夫十人をえらびて。村中の洗豆および室瀬といふ
地よ渠を穿つらと各十間餘ありし。か。その間よ塔岡

といふ小高き山あり多水なる山の底を穿ちて洞と
 かり水を通すべしとおひひ多れを備夫も山の底よ
 入るるに多水に畏縮りて進むにめあく村民もかゝる
 らるハ成しほすドまと思ひりか為花かど勵ます
 十人の備夫を分ちて更番とし已備夫の先よたちて
 晝夜たゆまず指揮あり多れに遂よ山の底七十三間を
 穿ち疏しぬその水渠通計九十間餘あるが凡七月に
 間よ成就し多水に人多あおとろき感得る人の所為よ
 わらざるといひもやゝるるかゝりしうは新田古田をよに

水害を免れり多水に多より水乏しりし洗之の
 地も大よとの利をばりりとも文政五年午の十月
 して生涯社倉支配役同格を命ぜられ退職の後もその
 格を失り多為花没せし後も村民か多か恩恵を倍し
 慕ひお謀りて碑石を建てその事を勅し永くその
 功澤を忘るるべし

